野外彫刻展の始まり

100 YEARS TOKIWA PARK ANNIVERSARY

ときわ公園 TOKIWA PARK

当時の新聞記事で振り返る

ときわ公園タイムズ

Tokiwa Park Times

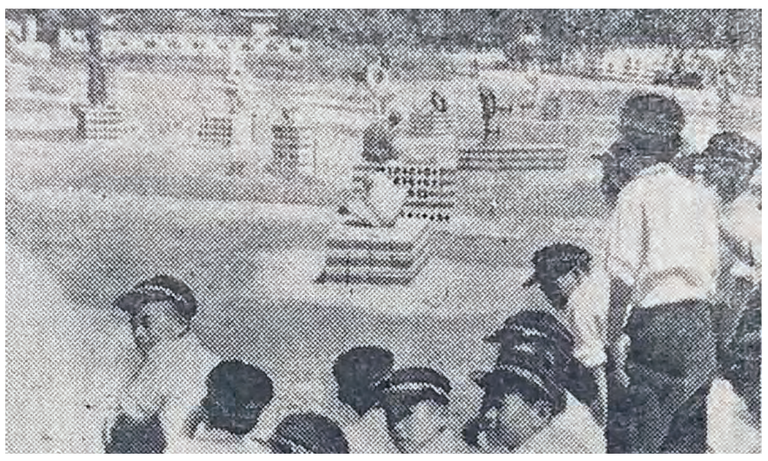
その3

1961年(昭和36年)7月18日
〜
1965年(昭和40年)5月8日

初の野外彫刻展蓋開け

第1回宇部市野外彫刻展が常盤公園内の渡辺植物園西側と遊園地催し館の2カ所でフタ開けした。渡辺植物園で開場式が行われ、市関係者や作家が出席。西田助役や市議会議長らが祝辞を述べた後、彫刻家・柳原義達氏が「素材の美しさと作家の夢が込められている。素直に鑑賞してほしい」と語っり、向井良吉氏は「彫刻には生命力が必要」と作品の意義を解説した。出品は抽象54点、具象7点の計61点で、柳原、向井氏、佐藤忠良氏、船越保武氏ら作家17人が参加。第1会場（渡辺植物園）に38点、第2会場（遊園地催し館）に23点が展示されており、石や鉄を使った多彩な作品群が観客を魅了している。約2カ月にわたり、市民に芸術の魅力を伝える。

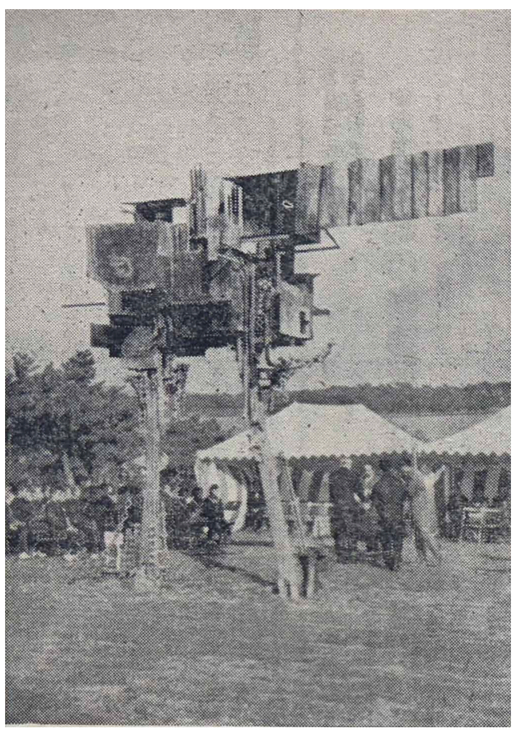
1961年(昭和36年)7月18日



日本で最大の野外抽象彫刻

向井氏の〝蟻の城〟除幕式

常盤公園の高台で制作されていた前衛彫刻家・向井良吉氏の作品「蟻の城」が完成し、現地で除幕式が行われた。常盤中ブラスバンドの演奏の中、同校1年の山崎弘子さんが除幕し、高さ6㍍、幅5㍍超の大作が湖畔を望む緑地に姿を現した。市長から感謝状が贈られ、向井氏は「蟻の巣を見て自然な造形やたくましさに感動し、擬人化して表現した」と語った。作品は約4㌧の鉄片を電気溶接でつなぎ組み合わせた日本最大の野外抽象彫刻で、東京での展示を経て宇部に設置された。制作には宇部鉄工所や市職員が協力し、完成を祝して美術評論家・土方定一氏が「蟻の巣の営み高き心なり、都市の庭に形あらわる」と詠んだ歌を寄せた。



4㌧の鉄片で制作

1962年(昭和37年)12月7日

野外彫刻美術館に「ワラぶきの家」

彫刻屋内展示や老人休息所に当てる

常盤公園の野外彫刻美術館に、「ワラぶきの家」が建てられた。約25坪の広さで、モダンな庭づくりとは対照的な純日本風の造りとなっている。彫刻の屋内展示場として利用されるほか、彫刻展がない時期は民生局の要請により、お年寄りたちの休息所としても開放される予定。近代的な彫刻展示にあえて古風な書院づくり風の様式を採用したのは、落ち着いた趣が展示空間に適しているとの関係者の判断による。「第1回全国彫刻コンクール公募展」では、屋外展示が難しい招待作家の作品約10点がこの建物内に展示される。

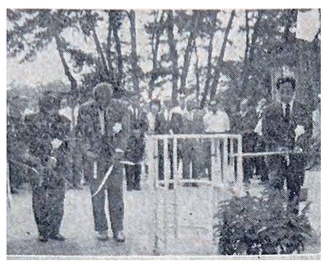
1963年(昭和38年)6月22日

大賞は志水さんの執念——い

日本の彫刻界に新風を吹き込み新進の発掘と国際水準まで高めようと画期的彫刻展と注目された第1回全国彫刻応募展は10日から宇部市常盤公園野外彫刻美術館で幕を開けたが、これより先、9日、総応募数94人122点について土方定一氏ら5人の審査員により入賞9点、入選26点が決まった。

その結果、大賞50万円の宇部興産賞は埼玉県出身の志水晴児氏の「執念—い」が獲得、また宇部市を彫刻に飾る運動に協力して特賞を出した宇部中央銀天街賞は東京都の宮川和博氏の「とり」に決まった。入賞、入選を通じ東日本、中でも東京を中心にした周辺の作家が多く、西日本は3点にとどまった。このうち県内からは昨年武蔵美大を卒業した下関市の芥川政子さんの「異邦人」が入選した。

1963年(昭和38年)9月10日



50万円の宇部興産賞獲得
第1回全国彫刻応募展

舞い上がる3色の水柱

完成した噴水池テスト上々

常盤公園に新名所となる噴水池が完成した。工費約60万円、失対事業として着工され、美観を高める目的で整備されたもので、西側の前夫婦池をコンクリートで整備し、周囲に石山を築き、池中央に噴水を設置した。噴水は高さ7㍍を中心に、周囲に高さ4㍍の噴水12本、さらに外側に2・5㍍の噴水24本、計37本の水柱を常盤湖の水を用いて10馬力のポンプで吹き上げる。夜間には緑・黄・赤の照明9基が水中から水柱を照らし、幻想的な光景を演出する。テスト運転では勢いよく舞い上がる水柱が涼を呼び、訪れた観光客の目を楽しませた。

1963年(昭和38年)8月7日

目にもあざやな菊衣装

大仕掛な国体記念〝大菊人形博〟

山口国体を記念した「宇部大菊人形博」が、常盤遊園地で華やかに開催。会場には一号館・二号館の菊人形館をはじめ、毎日スポーツ館、電子科学館、花壇が整備され、華麗な雰囲気に包まれている。一号館では「大鵬の土俵入り」や「海底探検」など7場面を菊人形で表現し、二号館では「忠臣蔵」や「本能寺の変」など歴史・歌舞伎の名場面8場面を展開。赤・白・黄の大輪の菊が舞台を彩っている。毎日スポーツ館では王選手のホームラン王トロフィーなど名選手の記録が展示され、電子科学館では超特急や魚群探知機など最新技術が紹介されている。

1963年(昭和38年)9月25日

色とりどりの着付け始まる

常盤橋完工式

常盤公園に新たな名所「常盤橋」が完成し、完工式が行われた。橋の建設に200万円を寄付した松本佐一氏に感謝状が贈られ、西田助役によるテープカットの後、地元園児や来賓が渡り初めを行った。

橋は長さ114・64㍍、幅4㍍のPSコンクリート製で、8本の自動水銀灯が設置され、夏の夕涼みスポットとしての賑わいが期待される。建設は失対事業として前年に着工され、総工費は約1600万円。

対岸には松林を活かした散歩路や芝生広場、キャンプ場などが整備される予定で、大型バス100台、自家用車150台を収容できる駐車場も設けられ、観光客の利便性も向上。常盤湖の美しい眺望とともに、常盤公園の新名所として注目されている。

1964年(昭和39年)6月13日

近代美を誇るサボテンセンター

庭石の間ぬう色とりどりの3万本

1965年(昭和40年)5月8日

常盤公園に新名所「サボテン・センター」が完成、一般開場される。旧有料駐車場に総工費約3000万円で建設されたこの施設は、管理棟とサボテン・ドームから構成される。サボテン・ドームは長さ36・15㍍、幅18㍍、高さ14㍍。カマボコ型の鉄骨ガラス張りの近代建築美をほこり、内部のロック・ガーデンには南米風の庭石に囲まれて約200種・3万本のサボテンが植えられており、珍しい50種の新種サボテンも展示されている。ドーム外側と屋根には300の噴水が設けられ、夏には常盤湖の水を吹き上げ、涼しさを演出する機能も備える。来場者は管理棟を経て地下道からドームへ入場できる。色とりどりの花が咲き、観光客の注目を集めている。

モンキーランドが完成

「宇部つつじ人形」も開幕

宇部市の常盤遊園地に新設された「モンキー・ランド」が完成し、「モンキーランド完成記念宇部つつじ人形」の開会式が行われた。星出市長がテープカットし、来賓約150人が新施設を見学。モンキー・ランドは、全長48㍍、幅28㍍の長円形錐形の中に、鉄筋コンクリート製の船「ときわ丸」が浮かび、ボンネット・モンキー50匹が乗船。周囲の見学ルートやジェットコースターから立体的に猿やトカラやぎの様子が見られる工夫が施されている。さらに、松林には新たに猿舎8棟が整備されたお猿の村が完成し、宮大路動物園から17種110匹の猿たちが新居に入った。「宇部つつじ人形」も開幕し、全国各地の民謡を主体にした17場面に25体のつつじ人形が展示された。民芸品約700点の展示やお猿の曲芸、動物ショーも開催され、春の常盤公園がにぎわいを見せている。

1964年(昭和39年)3月19日